企業名：アズビル

レポート名：　azbil report 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

　アズビルが目指すのは、創業以来の強みであるオートメーションを活用し、現代の環境・社会問題の解決に貢献する会社であると理解した。一方で成長に向けた具体的な方法などについては記述があまり見られず「新事業開拓」とのみ述べられている。概要こそ理解できるが具体性は不十分である。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

　1906 年の創業以来蓄積された現場での知見やノウハウと、最新の技術（AI、ビッグデータ）の活用が融合したオートメーションがアズビルの強みである。また、報告書内では日米欧での製品開発が取り上げられているものの、東アジア・東南アジアにおける事業展開も強みであると考えている。特に中国は産業の成長が著しく、オートメーション技術に対する需要も今後上昇傾向にあることが予想される。アズビルへの投資の是非を判断するにあたって、大きく評価できる強みであろう。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

　持続性の是非は本報告書からは判断できないと考える。強みをまとめた項目なども見当たらず、会社の競争優位性のアピールが不十分と感じる。一方で先に述べた通り、アジア圏への進出が進んでいる点は今後も引き続き強みであり続けると考えられ、持続性があることが予想できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

　達成できると考える。アズビルは人材育成に向けた主な取り組みとして新学習システムの導入、海外現地法人との交流、年代層別のキャリア研修や社内公募制度などを挙げている。この中で特に注目したいのがキャリア研修と社内公募制度である。自己のキャリア形成を考えて、社内公募制度の活用や人事との連携を通じ新しい業務に挑戦する、というアズビル一連のキャリア形成の流れは自身の人的資本の価値向上にあたって大きな意味を持つのではないかと考える。自身の希望を反映した業務経験を積むことができ、キャリア形成そのもののスキルも研修を通じて会社が成長をサポートしてくれるのだから人的資本の価値向上は達成可能だろう。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点としては経営陣へのインタビューが掲載されている点である。投資家や企業分析を行うものにとって経営陣の考えを知ることは非常に重要であり、この点は評価できる。一方で報告書の内容が抽象的である点が気になった。今後の成長が期待される事業領域として挙げた３領域での具体策が書かれていない点が最たる例である。次年度以降の報告書においては企業秘密なども考慮したうえで、さらに具体的な記述が増えることに期待したい。